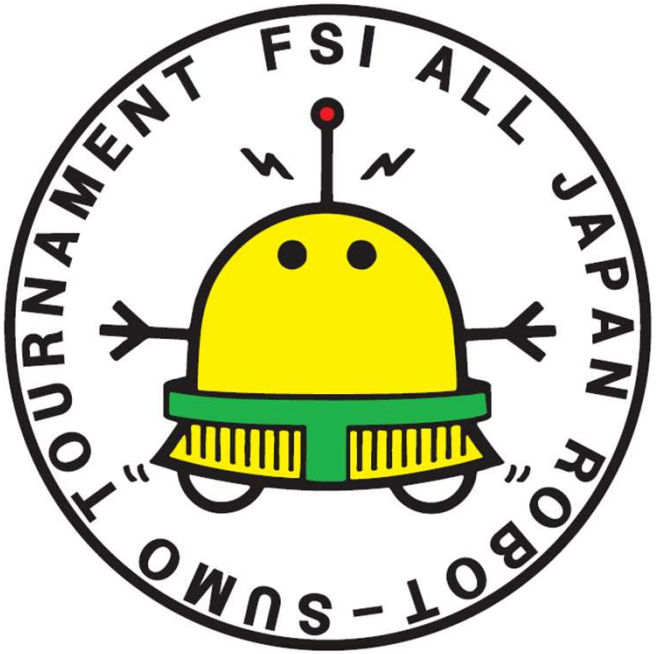
全日本ロボット相撲大会

５００gクラスの規格と車検方法について（2026年版）

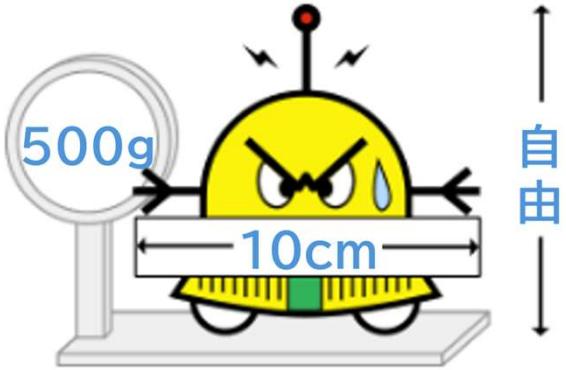


2026年7月1日

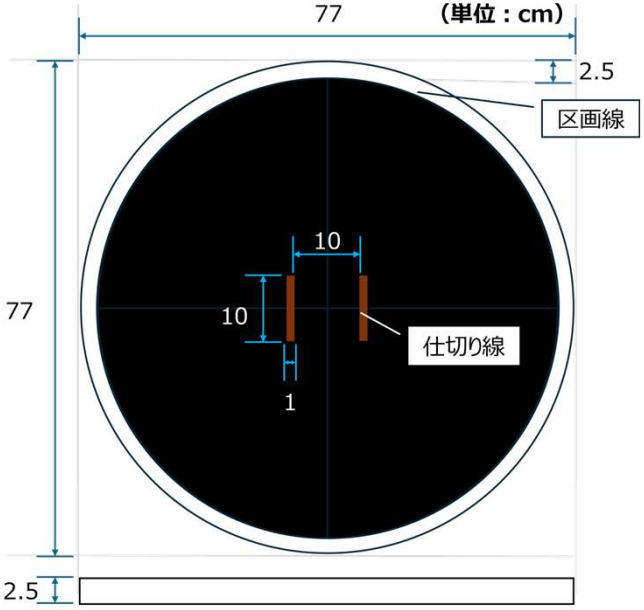
富士ソフト株式会社
ロボット相撲大会事務局

500gクラスの規格

【ロボットの規格】()内は3kgクラスの規格
　サイズ　　：幅10cm×奥行き10cm以内(幅20cm×奥行き20cm以内)
　重量　　：500g以内(3kg以内)
　高さ　　：自由
　機能　　：自重を増す機能の禁止(自重を増す機能の制限なし)
　安全対策：ロボットに鋭利な部分が無いこと(規定なし)
　カテゴリ　：自立型、ラジコン型



【土俵の規格】
　土俵直径：77cm(154cm)
　俵　　：2.5cm(5cm)
　仕切線　：長さ 10cm 幅 1cm 距離 10cm(長さ 20cm 幅 2cm 距離 20cm)
　高　さ　　：2.5cm(5cm)
　材　質　　：木製、表面はメラミン塗装もしくはメラミン化粧板(SPCC鋼板製)



【試合規則】
　ロボット・土俵の規格以外は3kgに準拠

ロボットの制作（安全性の確認）

500gクラスのロボットは、鋭利な部分が無いように制作し、素手で触れても安全であることを確認してください。

ロボットはブレードや変形・展開機構を含め、すべての先端部分を覆うようにテープを貼付します。

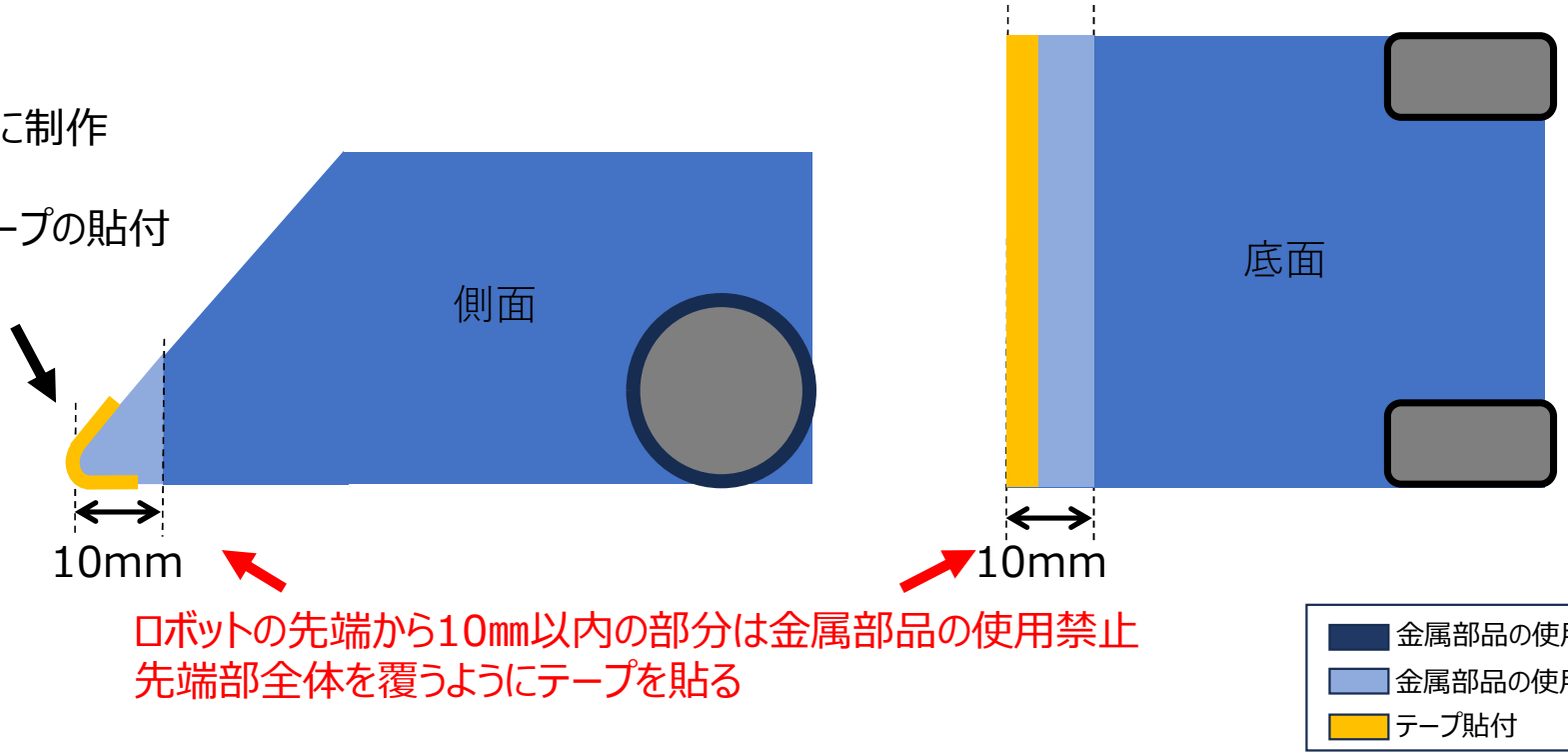
※ 約0.1mm厚以上のテープを使用してください。会場でもマスキングテープを用意します。

ロボットはブレードや変形・展開機構を含め、先端から10mm以内の部分は金属部品を使用できません。

2026年ルール変更

ただし、接地しない部分での金属部品や、タイヤのホイール、センサ類、固定用ビス等の使用は除きます。

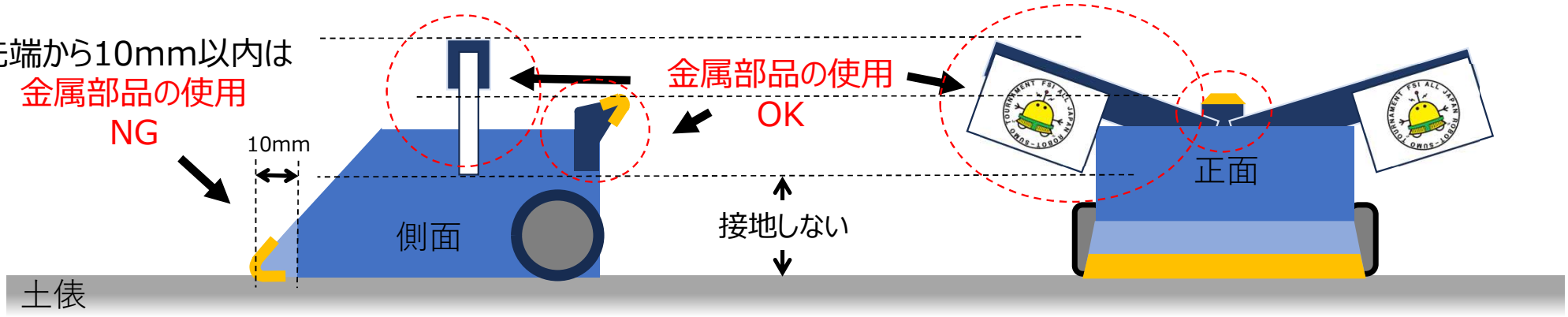
鋭利な部分が無いように制作
＋
先端部分へのマスキングテープの貼付



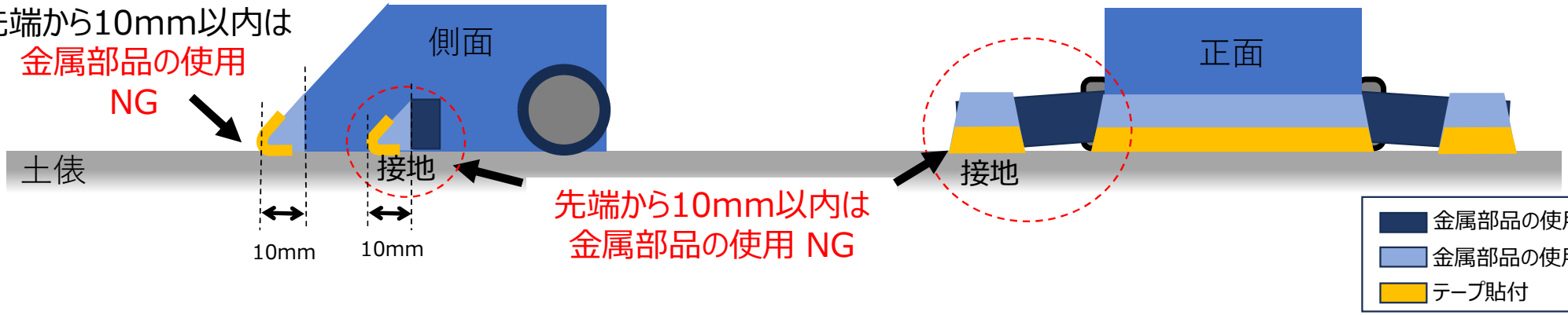
(参考)腕や旗など変形・展開する部分があるロボットの制作

2026年ルール変更

①接地しない変形・展開構造を持つロボットは、金属部品の使用が可能

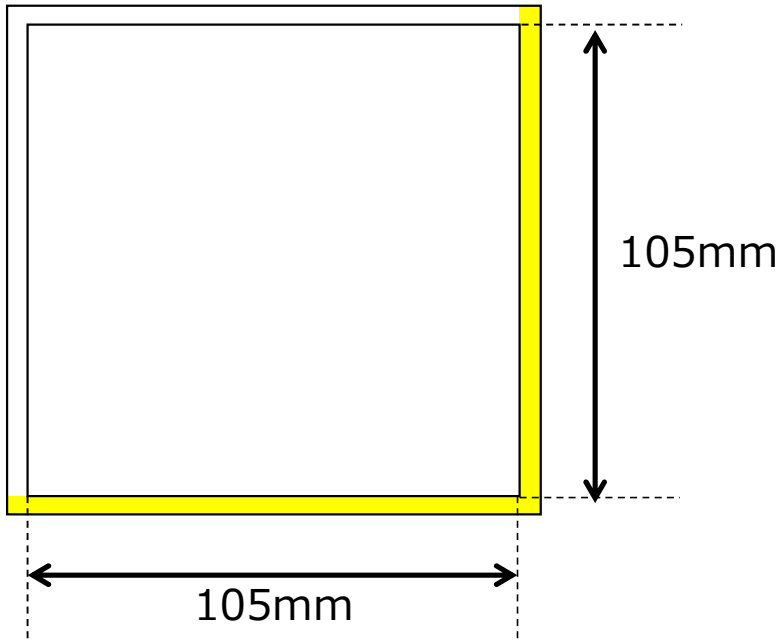


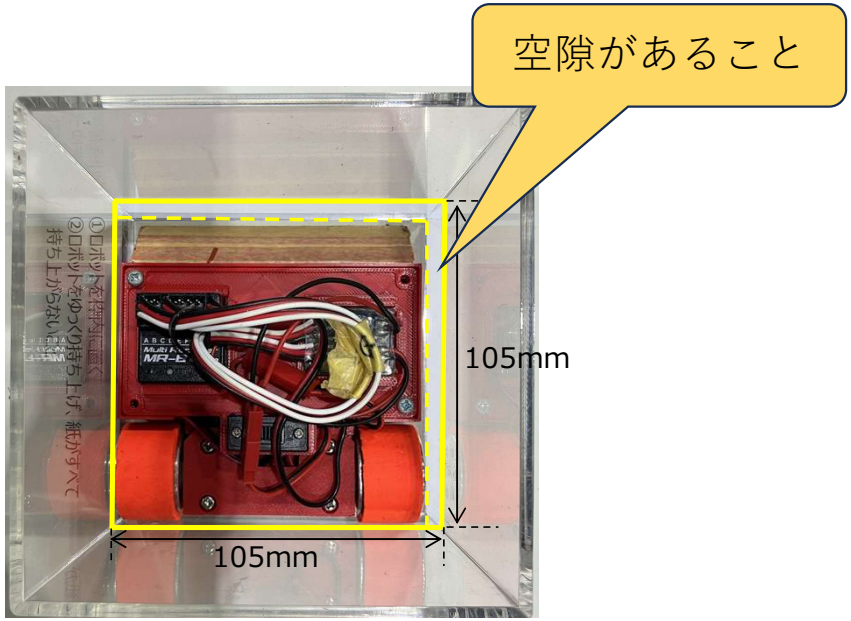
②接地する変形・展開構造を持つロボットは、先端から10mmまでの部分に金属部品の使用不可



車検①　大きさ(1/2)

ロボットの幅・奥行は10cm以内、高さは自由



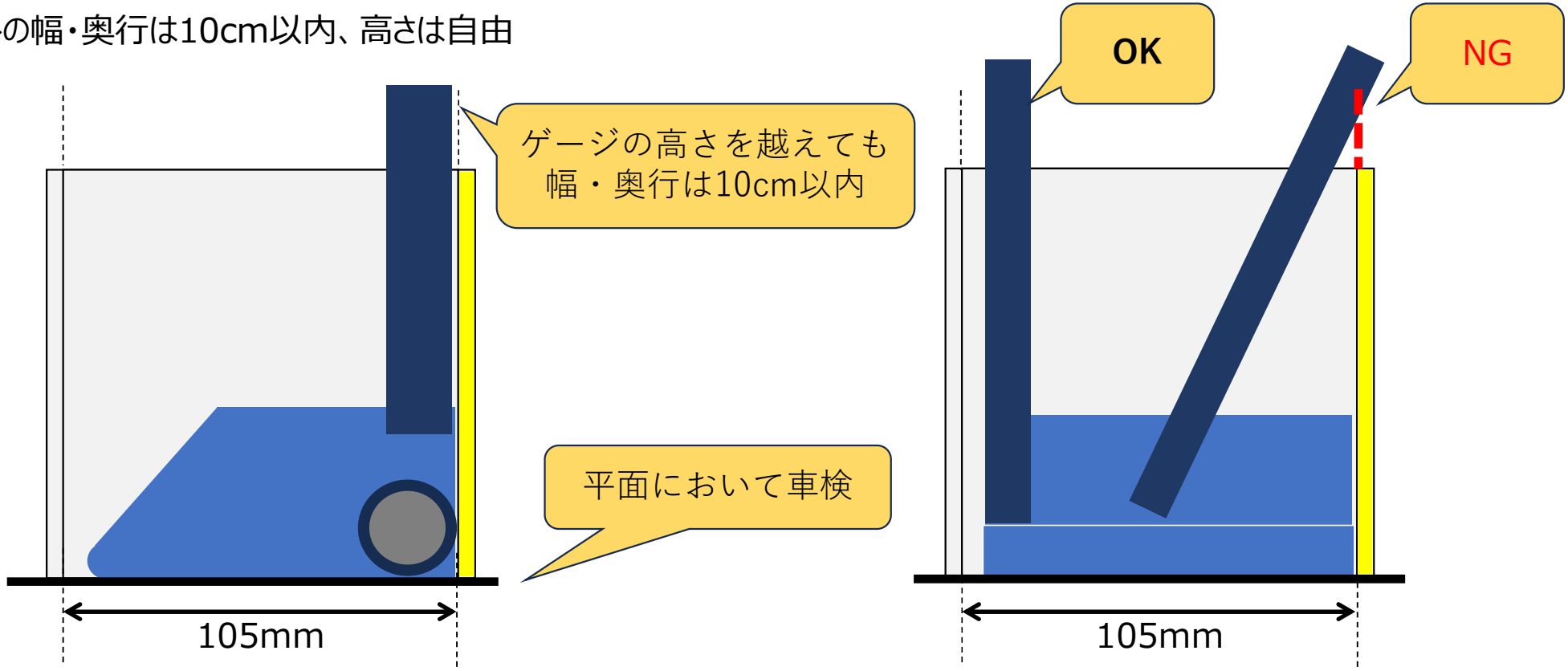


ロボットは２辺に接した状態で
他の２辺に空隙があること

車検用のゲージは105mmで作られています。車検の際には直交する2辺が接した状態で他の2辺に空隙があるように製作してください。

車検①　大きさ(2/2)

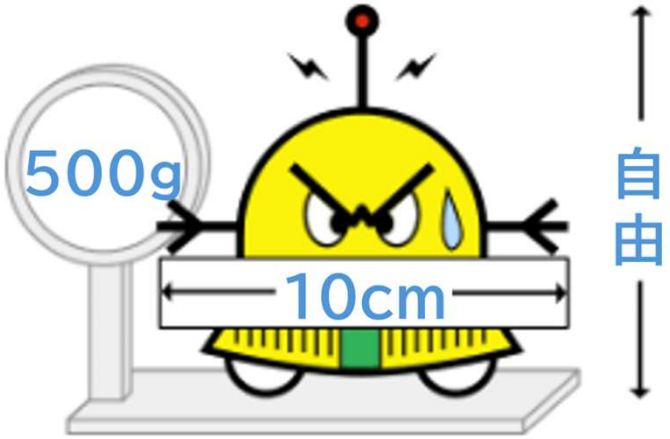
ロボットの幅・奥行は10cm以内、高さは自由



高さ方向でも、ゲージ内に収まる必要があります。
特に変形機構(旗、腕等)がある場合、ゲージを越えてもゲージの幅・奥行内に納まるように製作してください。
車検は平面上で行います。なお、試合時に審判が形状を満たしているか、確認する場合があります。

車検②　重さ

ロボットの重さは500g以内





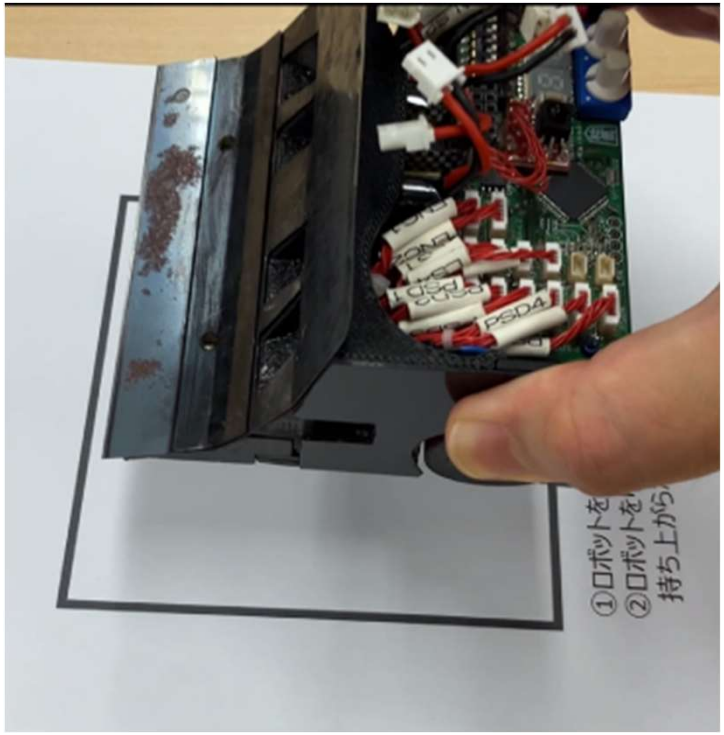
ロボットの重さは500g以内です。バッテリーや部品の変更で制限を超えないよう注意してください。

車検③　吸着の確認

500gクラスのロボットは自重を増やす機能を有してはいけません。
(ロボットの自重以上の力で土俵に接してはいけません)

＜車検違反となる事例＞

・ボディもしくはタイヤが粘着力を持ち、自重以上の力で土俵に接地する。
・吸引ファン、ブロワ等の機構により土俵に自重以上の力で接地する。



車検の際はA4のコピー用紙上にロボットを置き、紙が持ち上がるか確認します

車検④　鋭利な部分の確認

車検では審判が以下を確認し、ロボットとテープにマジックペンでチェックします。

・先端部分のテープ貼付

・先端から10mm以内に金属部品を使用していないこと(金属探知機や磁石等を用いる)

2026年ルール変更

車検時にテープが剥がれてしまった場合は、テープを貼付しなおした状態で再度車検が必要です。

試合開始前に審判が、車検後にロボットが変更されていないこと(テープの貼付状況とマジックペンのチェック)を確認します。

故意にテープを剥がしたなど、審判が不正があると判断した場合は失格とします。

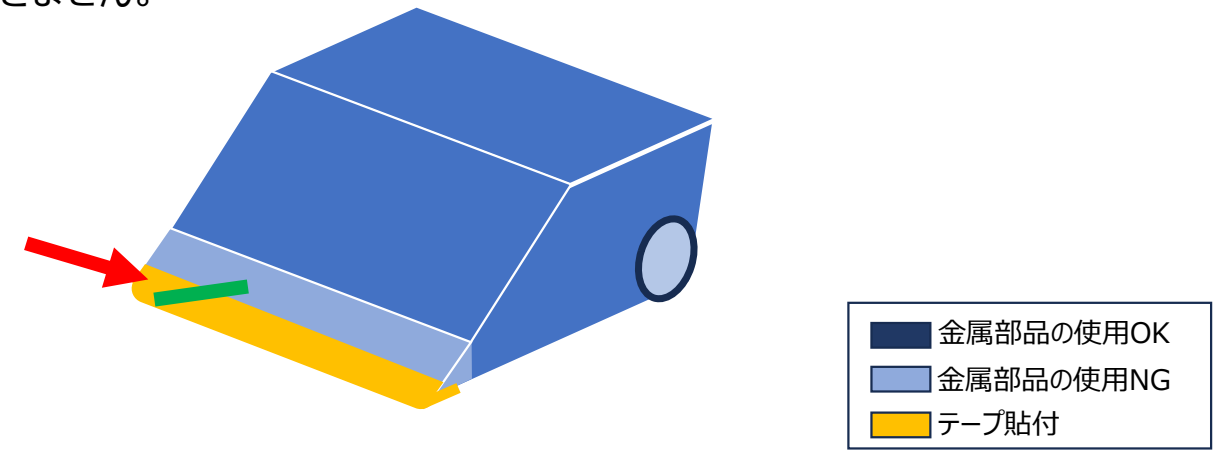
＜試合中＞

テープの剥がれが生じた場合は、試合を中断しテープを貼りなおして再度車検を行います。

先端部分を含む部品の脱落等があった場合は、必要に応じて脱落箇所にテープを貼りそのまま試合を続行します。

試合中は、脱落した部品を付けなおす等の整備はできません。

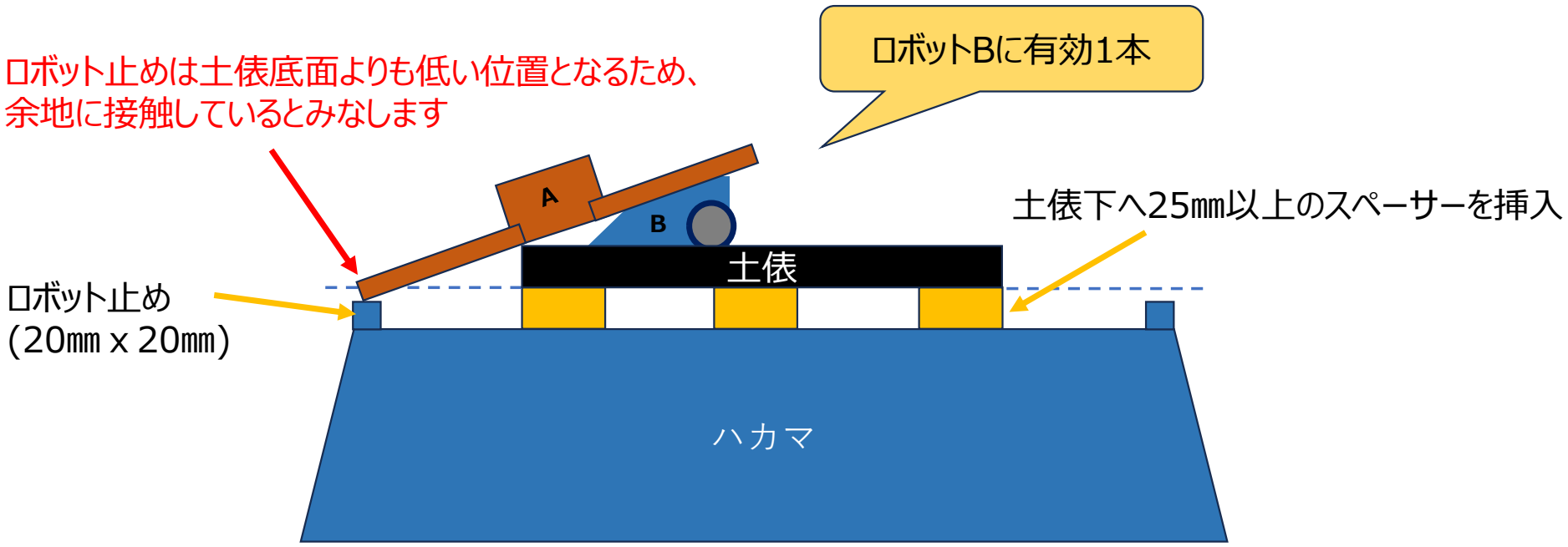
試合前に審判がテープの剥がれが無いか、
車検チェックがあるかを確認します。



(注意事項) 腕・旗等の拡張・展開するロボットについて

試合時にハカマ上のロボット止めに触れた場合、余地に触れたとみなして相手に有効1本とします。

・500gクラスは土俵の下にスペーサーを挿入し、土俵の高さが余地より25mm以上高くなるよう調整する
・ロボット止めの高さを20mmとし、ロボットの一部がロボット止めに触れた場合は土俵底面の位置を割り込んでいるとみなす



(注意事項) 試合時の注意事項について(自立型の場合)

自立型の試合手順

①審判の指示に従い、ロボットと停止装置を指定位置に置きます。

②審判の指示に従い、プログラムを設定してロボットを仕切位置に置きます。

仕切り後のプログラム変更はできません。

③仕切り後にアームや旗が倒れた場合は、その場で再度セット可能です。ただし、仕切り位置が動いたと審判が判断した場合は、仕切り直しを指示することがあります。

④リピートガン(スタート信号中継器)を構え、ロボットがスタート信号を受信することを確認します。

受信できたことを審判へ報告してください。

⑤審判の掛け声とともに、試合を開始します。

⑥勝負が確定し安全が確認できた後、審判の指示に従いロボットを回収します。

!!!注意!!!
ロボットを仕切位置に置いた後はプログラムを変更できません。
仕切り後に審判の許可なく、停止・設定装置等に触れると警告や反則となる場合があります。

(注意事項) 試合時の注意事項について(ラジコン型の場合)

ラジコン型の試合手順

①審判の指示に従い、ロボットとプロポを指定位置に置きます。

②審判の指示に従い、ロボットを設定して仕切位置に置きます。

仕切り後の変更はできません。

③仕切り後にアームや旗が倒れた場合は、その場で再度セット可能です。ただし、仕切り位置が動いたと審判が判断した場合は、仕切り直しを指示することがあります。

④審判の指示に従い、プロポを持ちます。

④審判の掛け声の後、カウントダウンタイマーの音(ピッピッピッ**ピー**)を聞いて試合を開始します。

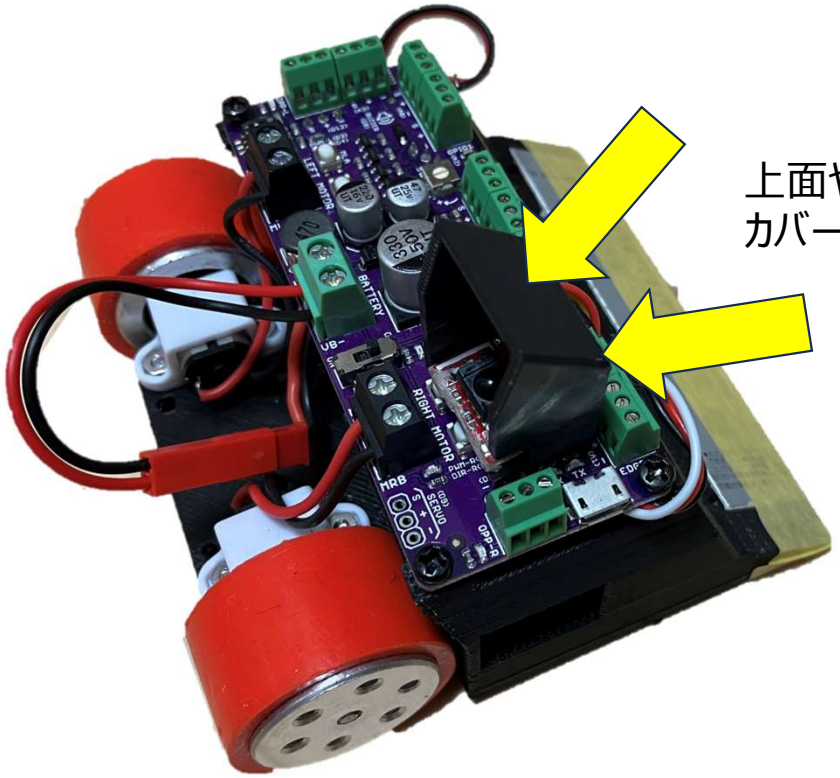
最後の音(ピー)が鳴る前にロボットが動いた場合はフライングとします。音をよく聞いてプロポを操作してください。

⑤勝負が確定し安全が確認できた後、審判の指示に従いロボットを回収します。

!!!注意!!!
フライングを2回した場合は相手に有効1本とします。音をよく聞いてからスタートしてください。
自立型と同様に、ロボットを仕切位置に置いた後は変更はできません。
仕切り後に審判の許可なく、プロポに触れると警告や反則となる場合があります。

(注意事項)スタートモジュールの配置方法について

スタートモジュールは赤外線を使用するため、照明や相手ロボットのセンサー光により正常に動作しない場合があります。
取付位置を工夫し、カバーを取り付けるなど周囲から遮光できるように製作をお願いします。



上面や前面からの直射光が入らないよう
カバーや覆いをつけてください。

(依頼事項)会場内での移動時のロボットの収納

会場内でロボットを持ち歩く際は接触によるトラブルを防ぐため、必ずケースやトレイに入れてください。



ケースやトレイに入れることを推奨

皆さんの参加をお待ちしています

